

# 辺野古通信

第54号 2016年10月24日

大盛況だった新垣毅さん講演集会(9/30 横浜市内)



土曜集中行動(10/15 高江 N1 表ゲート)

**発行** 沖縄の自立解放闘争に連帯し、反安保を闘う連続講座(沖縄講座@横浜)  
沖縄講座 HP <http://www.7b.biglobe.ne.jp/~okinawa-koza/>

## 高江の不当弾圧・機動隊員の差別発言糾弾へ、入札建設阻止!

■9月に入ってから、東村・高江のオスブレイ訓練施設へリパッド建設作業に一層の拍車がかかっている。東村長が住民の日常生活への影響を理由に村道・農道の使用を拒否すると、民間ヘリ、陸上自衛隊CH47ヘリまで投入して資材を空輸。ダンプによる砂利搬入も当初の10~20台/日から60台/日へと激増している。N1、G、H地区3箇所へのリパッド4基の「年内完成」を安倍首相が9/26臨時国会所信表明演説で表明するに至り、機動隊の暴力的警備も激しさを増し負傷者や逮捕者が続出。警察車両に作業員を乗せたり、業者のダンプに機動隊員が乗車して移動したりとなりふり構わない。■しかし、ゲート前や路上での抵抗闘争は粘り強く継続中だ。9月から始まった毎週水曜日と土曜日の集中行動日には、朝からN1表ゲート前に数百人が座り込み、資材搬入を滞らせている。国頭村の採石場から出発するダンプの車列に抗議するスタンディング行動も各所で繰り広げられている。9/22からは北部訓練場内に入り込んで、無謀な森林破壊に対する抗議行動も始まった。提供施設内での刑特法弾圧を事実上跳ね返している。■9/16福岡高裁那覇支部は、国側の主張を丸写しの不当判決を下した。沖縄県は最高裁に上告。政府

は高裁判決後にキャンプ・シュワブ内陸上部の作業を再開する構えを見せていたが、高江の激しい攻防を横目に、辺野古の動きはまだ見られない。■10/17山城博治さんが「器物損壊容疑」で不当逮捕された。10/20には何と3ヶ月前の「傷害」「公務執行妨害」容疑で神奈川の仲間と共に再逮捕され、家宅捜索まで受けて長期拘留中だ。弾圧が新たな段階に入ったが、これも安倍政権・防衛省の焦りの裏返しだ。■10/18大阪府警の機動隊員がウチナーンチュに対して「土人」という言葉投げつけた。日本の公権力が沖縄に対して持つ差別意識が顕在化した。沖縄に対する軍事植民地化政策の反映であり、警察官個人の処分で済む問題ではない。■9/4の「辺野古一揆の海第2章」上映会&宮城善光ミニライブも9/30の琉球新報記者・新垣毅さんの講演集会も大盛況。「辺野古高江派遣基金・神奈川」も立ち上がった。10月中旬に3組12人が高江座込みに参加した。神奈川でも、確実に輪が広がっている。しかし、安倍政権の暴走を止めるには、まだまだ不十分だ。辺野古・高江に一人でも多くの結集を！  
■辺野古・高江カンパは累計1,936,289円(10月20日現在)。引き続きカンパを！  
郵振 00210-0-2021 沖縄連続講座

### 屈しない「オール沖縄」の民意 11.17 仲里利信さん講演集会

11月17日(木)18時半から

- 講師：仲里利信さん(衆議院議員・沖縄4区)
- 映像&報告：辺野古・高江の闘い
- 会場：鶴見沖縄県人会館3階ホール  
(JR鶴見駅東口徒歩20分)
- 資料代：500円
- 主催：島ぐるみ会議と神奈川を結ぶ会



# 最高裁は9.16高裁不当判決を破棄せよ！

号外 沖縄タイムス 9.16



9/16、国が沖縄県を訴えた違法確認訴訟の判決が福岡高裁那覇支部(多見谷裁判長)で言い渡された。埋立て承認取消処分に対する国交省の「是正指示」に従わないのは違法である、とする沖縄県側敗訴の判決だ。判決は、①普天間飛行場の危険除去には辺野古移設以外になく、埋め立ての必要性は極めて高い。環境保全対策に不合理な点もなく、仲井真前知事の埋め立て承認は適法②前知事の承認処分に裁量権の逸脱や乱用はなく、翁長知事の取消処分は違法③是正指示に従わず相当期間を経過しており知事の対応は違法、という内容。2回の口頭弁論でスピード結審したとは思えない、裁判所の判決文としては異例の踏み込んだ一方的・恣意的な判断を下している。国側の意向に沿った強引な訴訟指揮からある程度予想できた判決だが、国側の主張をなぞっただけの「バランスを欠いた独断的な判決」であり、「裁判の判決というよりも一方的な決め付けによる恫喝というしかない」(9/17 沖縄タイムス社説) 代物だ。

振り返ってみれば、3/4の「和解」も、代執行訴訟では国側不利と見た多見谷裁判長が国側に「助け舟」を出して違法確認訴訟に持ち込んだものであり、国側の窓口である法務省定塚訟務局長とすり合わせをした上で、予定通りの判決文を書いたという筋書きが見えてくる。司法機関をも使って沖縄潰しに躍起になる。絶対に認めることはできない。福岡高裁那覇支部前には1500人が結集し、不当判決への抗議の声を上げた。夕刻、東京でも衆議院会館前に300人が集まり、安倍官邸に怒りのシュプレヒコールをぶつけた。



最高裁判所への署名とキャンドルアクション  
JUSTICE for OKINAWA !  
～最高裁は口頭弁論を行い、高裁判決を破棄しろ！

とき 11月20日(日)ー21日(月)

場所 最高裁判所周辺(東京都千代田区隼町4番2号)  
<スケジュール>

11月20日(日)18:00~20:00 キャンドル集会

11月21日(月) 8:00~9:00 最高裁前 出勤時ピラマキ  
10:00~ 最高裁要請行動(署名提出)  
12:00~13:00 昼休み集会、終了

2016年9月23日、沖縄県は辺野古埋立承認取り消し処分を取り消さないのは違法だとした福岡県那覇支部の判決を不服として最高裁に上告しました。最高裁への上告は、弁論が開かれずに棄却・却下されることが多いです。したがって、最高裁へ世論が注目していることを目に見える形で訴えるため、緊急署名と最高裁前での集会を呼びかけます。

【呼びかけ団体】

「止めよう！辺野古埋立て」国会包囲実行委員会

## 9.4映画上映&ミニライブに200人！

9/4(日)、横浜情報文化センターホールにて「辺野古一圧殺の海第2章」横浜上映会&宮城善光ミニライブを開催した。主催は沖縄講座@横浜、協賛団体に「島ぐるみ会議と神奈川を結ぶ会」「基地撤去をめざす県央共闘会議」。事前に東京新聞と神奈川新聞が催し物案内を記事にしてくれたこともあり、昼の部・夜の部合わせて約200人の参加があった。

映画「辺野古一圧殺の海第2章」は2014年11月の県知事選から2016年3月4日の「和解」までを描いたドキュメント。むき出しの国家暴力と正面对峙する辺野古のリアルな闘争現場を描ききり、前作「圧殺の海」以上に、観客に衝撃と感銘を与えたようだ。辺野古で何が起きているのか。ヤマトの私たちに何が問われているのか。迫力のある映像が、観る者にくり返し重い問いを突きつける。アンケートには49人から率直な感想が寄せられた。ミニライブも映画とコラボして、ナーグシク・ヨシミツ(宮城善光)さんの唄と語りが共感を持って受け止められた。三線で「屋嘉節」、ギターでウチナーグチ風の「イマジン」「流りゆく白雲ぬ如に」「希望の光は故郷に」を演奏。ヨシミツさんのメッセージがストレートに聴衆の心に響いたようだ。辺野古・高江カンパも約10万円集まった。感謝！





# ふと見るとイボイモリ?…こんな自然を残したい、と切に望む～高江報告

10/12に沖縄入りし、10/13-15の3日間、高江の座込みに参加した。圧倒的な機動隊の過剰警備の中で、N1表ゲート、N1裏ゲート、メインゲート、北部訓練場内と分散化を強いられていた高江の闘いが、県民会議・高江現地実行委員会(山城博治代表)の枠組みの中で一堂に会して協議し闘う体制を整えた局面に遭遇した。全体で確認された統一の方針は、N1表ゲート前での資材搬入を阻止する座込み行動を主軸に、提供施設内に入り込んでの抗議行動とも連携しながら、弾圧には統一に対応する、というもの。10/15の土曜集中行動日のN1表ゲート前集会で山城さんが報告していた。森林破壊は進んでいるが、まだ止められる。毎日早朝7時半からのN1表ゲート前で座込み行動へ!

## レポート①

10/13の高江は朝から冷たい雨が降りしきっていた。沖縄には何度も来ているが、この時期にこんなに肌寒く、大雨が長く続く陽気に遭遇したことは初めて。合羽を被っていても容赦なく雨が浸みってくる。

そんななか、ヘリパッド移設工事現場周辺では合羽を着た老年約20名で、目の前を通り抜けようとする砂利積みダンプに向けて「高江の自然を守れ」「ヘリポート反対」などのプラカードを掲げ、振りかざす。

20代の機動隊員3人が取り囲み、目の前で両手をあげながら「危ないことは辞めてください」と遮ろうとする。3倍以上の機動隊員の前でどんな危ないことが出来るのか。

翌日の14日は、山城さんを隊長にテントで終結。30名で山に入ることになった。何度も点呼。緊張感が走る。自分の番号を応えること数回。長靴、手ぬぐい、軍手、合羽でドロドロの斜面を登る。月曜からの行動のための道づくり、と思えば丁寧に枝を払い、雑草を取り除きしっかり踏みしめる。歩きやすいように根を掘る。脇を見ると目の前に砂利の山。これを運び込むのか…。目の前には機動隊が何重にもなってカメラを向けている。

作業中ふと見るとイボイモリ(?)が…。豊饒な森は豊かな水源。多様な生物を育てている。この自然を残したい、と切に望んだ瞬間であった。

三日目は土曜日の大行動の日。各地から次々に集合。正面ゲート前に長い板が敷かれ、時折雨の落ちる曇り空の下で座り込みの開始。200名近い集結は心強い。

数は大事。意思を表すことも大事。これからも力になりたい。もずくの天麩羅を食しながら思ったのである。(S)



## レポート②

10/13早朝の高江の森からカン!カン!カン!と音?が聞こえた。金属がぶつかり合う音かと話していたがオオシマゼミの声らしいと帰宅してから知った。ウグイスの鳴き声のほかに綺麗な鳥の声も聞こえた。ノグチゲラやホウトウアカヒゲの鳴き声だったらしい。山原の慈雨の中で機動隊に対峙する私たちの前を工事用のダンプカーがパトカーに守られ走りぬけていく。オスプレイパッドが沖縄県民の意志に反して強引に造られている。

15日早朝の土曜集会に参加し伊波義安氏(奥間川流域保護基金代表)から亜熱帯の沖縄の山原の自然の大切さ、失われようとしている命について話を聞いた。沖縄タイムス論壇に伊波氏が書いた文章から一部を紹介したい。「1999年琉球大学、広島大学の専門の先生方からなる「琉球列島動植物分布調査チーム」が「ヘリパッド建設予定地の見直しに関する要望書」を国、県に提出した。この中で次のように述べている。「ヘリパッド建設予定地一帯は、自然度が極めて高く生態系がヤンバルで唯一海岸から脊梁山地まで連続している。多数の生物が豊富に生育していることから生物学的に非常に重要な地域であり、単に国内で貴重であるばかりでなく、人類が守るべき世界的な財産である」と。建設予定地の山に入ると多くの巨木を伐採している実態がわかるとも言われた。そうした自然破壊の監視と暴力的に推し進められている建設工事に反対する意志を示す行動として山に入る仲間がいる。私も14日に赤土の山道を登りながら、この地で営まれてきた地元住民の生活も環境も破壊されようとしていることを実感した。そして山城博治氏が「県民の誇りと意地を示す闘い」と言っていた、その姿を再度取り戻したいと今思う。(Y)



# 「沖縄と共に東アジアの平和を創造しよう！」9.30講演集会大盛況



9/30の夜、「日米安保は沖縄で起きている—9.30横浜講演集会」が横浜市開港記念会館で開かれた。主催は「島ぐるみ会議と神奈川を結ぶ会」と「基地撤去をめざす県央共闘会議」。110席が満席、大盛況となった。

冒頭、衝撃的な映像が約15分間流れた。森の映画社製作の最新作「高江—森が泣いている」（64分）の短縮版。ヤマトではありえないような事態が沖縄で起きている。

映像上映のあと、主催者挨拶に立った「島ぐるみ会議と神奈川を結ぶ会」の仲宗根保代表世話人（鶴見沖縄県人会元幹事長）は翁長知事が那覇市長時代に全国の県人会の集まりである全国沖縄県人会大会で「オール沖縄」の重要性を訴えた経緯を紹介し、「自民党が選挙でお金をばら撒いて、政府の要人を応援に送り込んでも『オール沖縄』には勝てない。民意は揺るがない。安倍さんも何かと『沖縄に寄り添って』とか言うが、沖縄の民意をどう考えているのか。安倍さんの二枚舌、詐欺師ぶりは明らかなのに、マスコミが指摘しない。きょうはぜひ講師の新垣さんのお話も聴きながら。流れを変えるきっかけをつくっていききたい」と強調した。

続いて、琉球新報東京支社報道部長の新垣毅さんが登壇。新垣さんは、「排外主義への危機感」から語り始めた。今年の春からの東京支社勤務のために都内でアパートを借りようとしたところ、大家から「琉球新報記者には貸さない」と言われたという。沖縄の2紙が県民を操作しているというネット右翼の言説の背景には、「操作されやすい沖縄県民」という蔑視感がある。そしてそのような差別や排外主義を助長するような安倍政権や

関係閣僚の言説、姿勢が問題だ、と新垣さんは指摘する。沖縄で進む南西諸島軍事強化、「3正面強行作戦」、「負担軽減のまやかし」を解説し、問いを発する。沖縄の人々が、日米の強大な国家権力と対峙して諦めないのはなぜか。新垣さんは、沖縄の抵抗の歴史的根拠に言及し、日米の植民地主義を脱却する沖縄の闘いの未来を、世界史的視野から展望する。そしてヤマトに暮らす私たちに問いかける。安保のリスクを沖縄に押し付けたままの「平和」でいいのですか、と。最後に新垣さんは「私には夢がある」というキング牧師の言葉を紹介、「内向き志向を脱するには夢を持つ必要がある。敵対関係ばかり煽る東アジアの冷戦構造は時代遅れ。沖縄が軍事の要石から平和の要石に転換することが重要。ヤマトンチュウも沖縄とともに平和な東アジアをつくらうではないか」と呼びかけた。

予定の一時間を超えての熱弁に、満員の参加者は最後まで熱心に聞き入った。アンケートに記された感想に見られるように、沖縄の軍事植民地状況の厳しい告発とヤマトへの問いかけ、東アジアの平和創造に向けた連帯の呼び掛けは共感を持って受け止められた。講演後の質疑も活発に交わされた。新垣さんが持参した著書『沖縄の自己決定権—その歴史的根拠と近未来の展望』（2015年高文研）は15冊完売となった。

講演のあと、結ぶ会の高梨晃嘉代表世話人から「辺野古高江派遣基金・神奈川」の設立とカンパの呼びかけ。派遣基金への会場カンパは約8万円集まった。結ぶ会では10月の中旬に、3グループの辺野古・高江現地派遣を予定している。

集会終了後に近くの居酒屋に場所を移し、主催者を中心に新垣毅さんを囲んで交流を深めた。

## ◆アンケートから◆

\*沖縄を軍事の要石から平和の要石にしていく、そういう夢を持って沖縄と連帯して闘っていきたいです。「自己決定権」という言葉が心に強く残りました。最後の、闘いの展望のお話に励まされました。とても説得力のある素晴らしいお話でした。沖縄の基地の現状が、よくわかりました。（59歳女性）

